

# 2009年 第13回日本統合医療学会 (IMJ)

## 前立腺癌多発性骨転移に対して低線量放射線治療効果が認められた一例

○高良 毅 1)、窪田 倭 1)、関口守衛 2)、三浦竜介 3)

1) 医療法人盛心会タカラクリニック、2) ドイツ文化会館・赤坂関口クリニック、3) (株) シー・エム・シー

### 【症例】

52歳男性 2005年4月某大学病院にて前立腺癌の多発性骨転移の診断 PSA850ng/ml (以下単位略) にてカゾデックス 80mg / 日にて同年6月 PSA 4.8、10月には 0.04 に低下する。以後他の病院外来経過観察中 2006年6月 0.38、同年7月 0.8、同年9月には 1.0 と上昇。2006年7月28日当院受診。他医にてプロスタール 25mg を 2006年6月より経口投与。当院受診時より低線量放射線治療 1回 X線照射線量 150mSV の全身照射を週1回で30回照射した。

### 【結果】

10回照射後より PSA は 0.1 と急激に減少。2007年4月低線量放射線治療は終了するも同年11月 PSA は 0.008 と更に低下。2007年10月骨シンチにて多発性骨転移の消失を認め、2008年4月にも再発は認めず。2009年8月 PSA は依然 0.06 と安定。

### 【結論】

前立腺癌多発性骨転移に対して低線量放射線治療の有効性を認めた